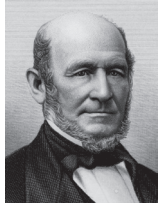


「主に導きを求める」

当時十二使徒定員会の会員であった大管長会のヒーバー・C・キンボール管長（1801 - 1868年）の次の言葉を読み、その後に記載されている質問について話し合います。



「リバプールにいた間、福音を宣言し、主の王国を設立し広めるうえで最も有益な場所にわたしたちが導かれるよう、時間を評議と主に導きを求めることに費やしました。このように携わっている間、主の御霊と神の力強い力がわたしたちと共にあり、わたしたちは大いに強められたことを感じました。そして、わたしたち全員が、生きようが死にようが、歓迎されようが非難されようが、前進する決意をしました。……

プレストンに行くようにという主の御霊の導きを感じ、……わたしたちはその地で始めました。」(Journal of Heber C. Kimball, ed. R. B. Thompson [1840], 15 - 16)

- この話は、「恐れや不適合さがあるにもかかわらず、わたしたちが主を信頼するならば、主は主の力によってわたしたちを支えてくださり、わたしたちが主の業を行うのうえで資格あるものにしてくださる。」という原則をどのように表していますか。
- これらの宣教師たちが主に導きを求める努力をしたことから、わたしたちはさらにどのような原則を学ぶことができるでしょうか。